

PRESS RELEASE

日本取引所グループ プレスリリース



株式会社日本取引所グループ
〒103-8224 東京都中央区日本橋兜町2番1号
Tel : 03-3666-1361 (代表)

JAPAN EXCHANGE GROUP, INC.
2-1, Nihombashi-Kabuto-cho, Chuo-ku,
Tokyo 103-8224, Japan
Tel : +81-3-3666-1361

URL: <http://www.jpx.co.jp/>

2016年11月7日

各 位

株式会社東京証券取引所

第5回企業価値向上表彰に係るファイナリストの選定について

この度、「上場会社表彰選定委員会」（座長：一橋大学大学院・伊藤邦雄特任教授）の審議結果を受け、第5回企業価値向上表彰のファイナリスト（大賞候補会社）として次の4社を選定しましたので、お知らせいたします。

「上場会社表彰選定委員会」の審議の結果、当該4社は、高い企業価値の向上を実現していることに加え、資本コストを上回る企業価値の創造を目指す「企業価値向上経営」を高いレベルで実践していると認められました。

今後、各社の経営陣に対する選定委員によるインタビューや投資者からの意見募集を行い、2017年1月を目途に大賞を決定する予定です。

【ファイナリストとして選定した上場会社】

会社名	証券コード	業種名	市場区分
明治ホールディングス株式会社	2269	食料品	市場第一部
株式会社スタートトゥデイ	3092	小売業	市場第一部
花王株式会社	4452	化学	市場第一部
アステラス製薬株式会社	4503	医薬品	市場第一部

(証券コード順に記載)

【参考】企業価値向上表彰について

企業価値向上表彰は、資本コストをはじめとする投資者の視点を強く意識した経営を実践し、企業価値の向上を実現している上場会社を表彰する取組みです。

本表彰の選定は、次表のプロセスに基づき、有識者で構成される「上場会社表彰選定委員会」の審議により進められます。本表彰の概要や選定経過等については、特設ウェブサイト (<http://ps.nikkei.co.jp/tseaward2016/>) でもご紹介しています。

以 上

<企業価値向上表彰の選定プロセス>

1. スクリーニング（株主の期待に応えてきたか）

約 3,500 社の全上場会社から、株主から見た投資リターンを表す ROE と、株主がその会社に期待している収益率を表す株主資本コストとを比較し、過去 3 年間に於いてその差であるエクイティ・スプレッドが大きい会社又は大きく成長している会社を 400 社抽出。

2. 一次選抜（企業価値の向上を意識し、実績を上げてきたか）

A. 企業価値の向上を強く意識した経営を行ってきたか

スクリーニングを通った 400 社に対してアンケートを行い、資本コストを認識しているか、経営計画と投資採択・撤退基準に反映しているかを尋ね、企業価値の向上を強く意識した経営を行ってきたことを確認。

B. 実績として企業価値を大きく向上させてきたか

アンケートで企業価値向上に対する明確な意識を確認できた会社の中から、実績として企業価値を向上させてきた会社として、直前事業年度の企業価値の増加額が大きい会社又は増加率が大きい会社を 50 社選抜。

⇒ 表彰候補会社として会社名を公表。【9 月 26 日の発表内容】

3. 二次選抜（企業価値向上に対する意識と実績は関連しているか）

一次選抜を通った 50 社に対してアンケートを行い、企業価値向上に対する強い意識を高い実績につなげるために、どのような経営上の規律付けや工夫を行っているかを確認。

強い意識が、優れた規律付けや工夫を通じて、高い実績に結び付いていると認められる会社を 4 社選抜。

⇒ ファイナリストとして会社名を公表。【本日の発表内容】

4. 大賞会社の決定（他の上場会社にとって参考となるか）

上場会社表彰選定委員によるファイナリストへのインタビューでアンケートの回答内容について確認を行うとともに、内外の投資者からファイナリスト会社に対する意見を募集。

インタビューと意見募集の結果を踏まえ、他の上場会社にとって最も参考とするにふさわしい会社を大賞会社を選出。

⇒ 大賞会社として会社名と選考理由を公表。【来年 1 月頃を予定】

【本件に関するお問い合わせ先】

東京証券取引所 上場部内 上場会社表彰選定委員会事務局

電話 050-3377-7012（直通）

第5回企業価値向上表彰 ファイナリストの選定の視点

2016年11月
上場会社表彰選定委員会事務局

上場会社表彰選定委員会では、企業価値を向上させる経営手法は多様であることを十分に踏まえつつ、経済付加価値の創造において一般的に重要とされる「ベストプラクティス」に照らして各社の取組みを評価し、ファイナリスト（大賞候補会社）の選定を行いました。

選定委員会がファイナリストを選定するに当たり重視した視点は、以下のとおりです。

1. 資本コストの認識

企業価値を向上させるための資本政策の策定や投資採択などの経営判断を行うに当たっては、自社の資本コストに係る認識が不可欠であると考えました。

そのため、自社の資本コストの水準を認識していることを選定の必須条件としました。

2. 経営上の枠組みと資本コストを意識した経営の実践

企業価値向上を実現する経営が行われるためには、以下のような経営上の枠組みが導入・整備され、それらの枠組みの中で、自社の資本コストを意識した経営が実践されていることが重要であると考えました。

(1) 経営目標の立案

- ・ 中期経営計画（又はそれに準じる複数年度に渡る計画を含む）が策定されているか
- ・ 資本生産性を意識した経営指標（ROE、ROIC等）が活用されているか
- ・ 自社の最適資本構成のイメージを持ち、それが社内で共有されているか

(2) 経営管理制度の導入・整備

- ・ 新規投資の採択や既存投資からの撤退に係る意思決定を行う際の判断基準が策定されているか
- ・ 投資採択や撤退に係る判断基準に資本コストの概念が組み込まれているか

(3) 評価報酬体系の導入・整備

- ・ 金銭報酬が業績と一定程度連動しているか
- ・ 業績評価に用いる管理指標に資本コストの概念が組み込まれているか

(4) 企業価値向上に向けた啓発活動の推進

- ・ 自社の経営目標や資本コストの概念について社内で共有が図られているか（社内研修の実施等）

上記の各項目に関して評価を行うに当たっては、例えば「株主から付託された資金に関する収益目標（ROE等）が資本コストの水準を踏まえて設定されているか」や「資本コストを上回るリターンの獲得を目指す投資採択基準が活用されているか」など、投資者から付託された資金を有効に活用する経営態勢が整備・運用されているか否かに着眼して、審議を行いました。

3. その他事項

上記の方法に基づき選抜された上場会社について、企業価値の創造による国民経済への貢献の状況なども総合的に勘案し、ファイナリストを選定しました。

以 上